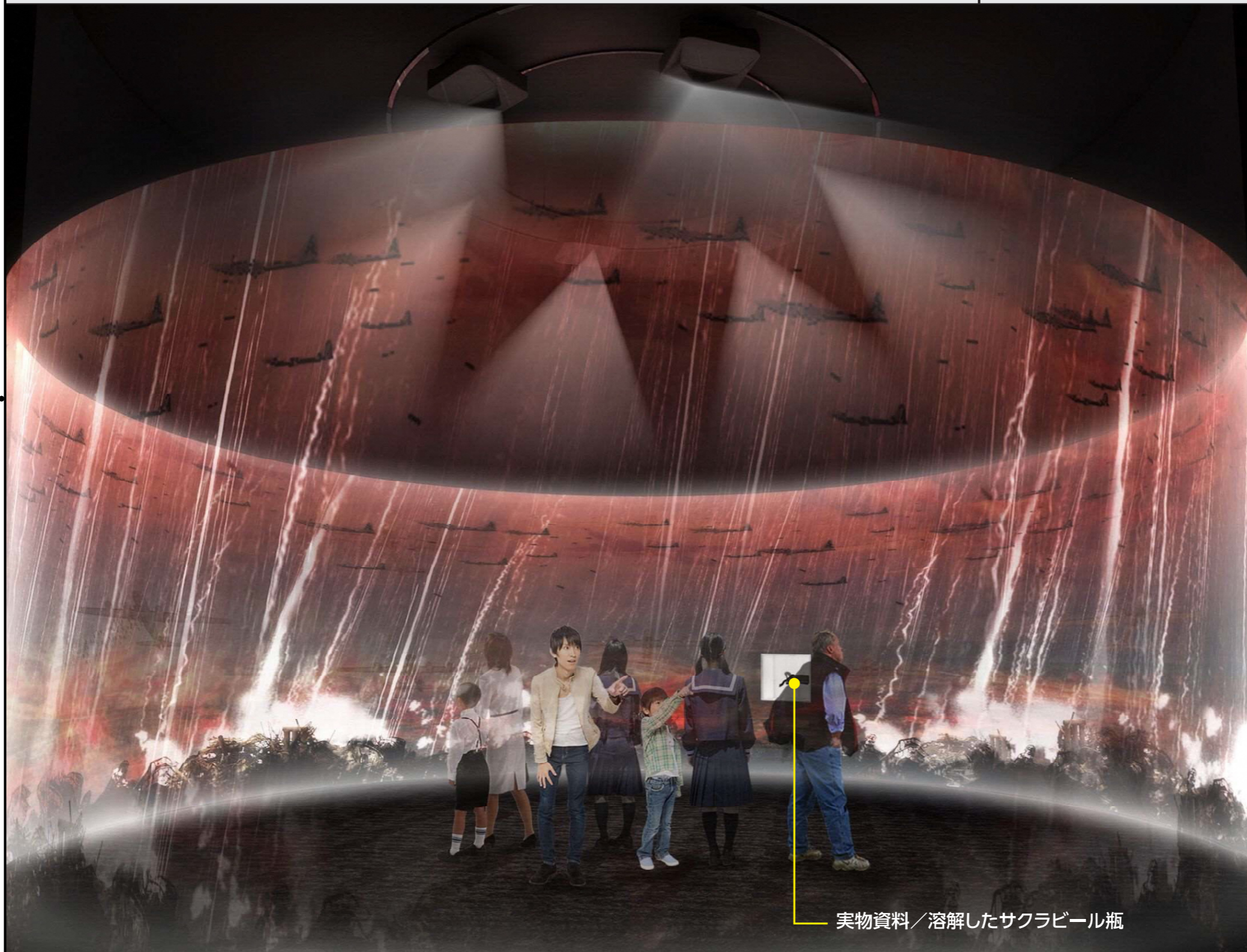
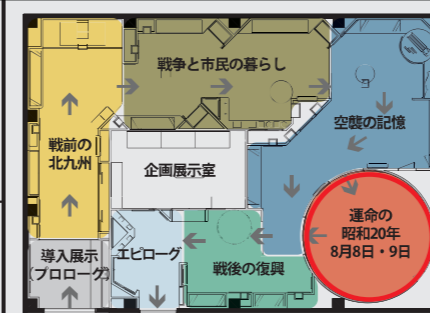


■運命の昭和20年8月8日・9日

映像や音響技術を活用した360度シアター。
昭和20年8月8日の八幡の空襲、翌9日の原子爆弾を搭載したB29が小倉上空を飛来した後、長崎に向かった2日間の出来事を追体験する。

運命の昭和20年8月8日・9日

8月8日の八幡の空襲をシアターにおける情景再現等を通して、八幡のまちが焼け野原になり、多くの人が被害にあった事実を知る。



実物資料／溶解したサクラビール瓶

「運命の昭和20年8月8日・9日」

360度
シアター
映像

8月8日の八幡大空襲から9日のB29小倉飛来までの経緯を『後世に語り継ぐ北九州市民の戦争体験』などの証言を基にしたストーリー。当時の街並みと出来事をCGで想定再現し、追体験できるものとする。

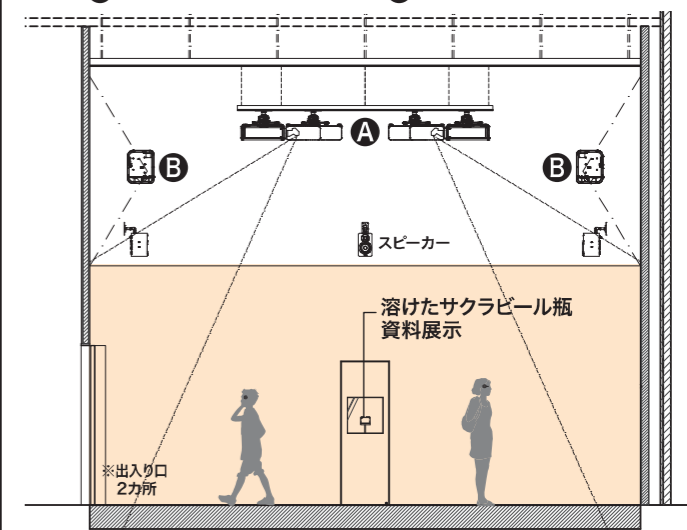
360度全周シアターで、臨場感にあふれる空襲の再現映像を床振動などの効果を用いながら投影する。

●運命の昭和20年8月8日・9日 ストーリー

1. **プロローグ** 昭和20年8月の北九州・・・
小倉や八幡で生活する人々にとって、戦時下ながら普段通りの生活があった。
2. **8月7日～8日** 八幡の人々が寝静まった時、遙かテニアン島では焼夷弾を満載したB29の大群が日本へ向けて離陸の準備をしていた。
3. **8月8日の朝** 大詔奉戴日の8日の朝、学校に向かう子どもたちや勤労奉仕で小倉陸軍造兵廠へ向かう学生など、いつもの朝がそこにあった。そして朝10時、B29の大群が八幡の空に現れた。
4. **空襲** 容赦なく降り注ぐ焼夷弾の雨、家屋は燃えさかり人々は熱さに逃げまどった。防空壕に逃げた人々も決して安全ではなかった。
5. **空襲後の静寂** 1時間後、B29が去り残されたのは、煙にかすみ焼野原と化した八幡の町だった。
6. **8月9日 朝** 前日の空襲の煙がたなびく、北九州の空に3機のB29が現れた。いぶかしく見上げる人々。やがてB29は小倉の空から、次の目標である長崎へ原爆投下のために向かって行った。

●シアター全体イメージ

▲ 壁面投影 プロジェクター/6台 B 上部壁面投影 プロジェクター/2台



トータルメディア
株式会社 開発研究所

本社 〒102-0084 東京都千代田区紀尾井町3番23号
電話 03-3221-6567
西日本事業本部 〒653-0001 大阪府大阪市福島区福島13丁目1番61号
電話 06-6442-3571 代 表 ファックス 06-6442-3579
一級建築士事務所 (東京都知事登録 第19543号)
大阪府知事登録 (二) 第18236号)
建設業者登録 (国土交通大臣許可 (特-27) 第18806号)

名称 (仮称) 平和資料館展示設計業務委託	チェック +	日付	設計	機査	図面名称 概要版	縮尺	図面番号 06
実施設計					常設展示室		